

令和2(2020)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

国語科 2020年度重点目標		
項目1	目標	① 各学年または到達段階に応じた国語の力を生徒に身につけさせる。
	達成方法	・漢字テストや単語テスト、文法テストなどの小テストを定期的実践する。また、読書や副教材やプリントを用いた課題(宿題)を理解度に応じて提供することで、家庭学習においても自発的に国語の学習に取り組めるようにする。
		・中学では読書指導や百人一首の暗唱などの活動を通じて文章や言葉に常に関心を持たせていく。
		・中学段階から論理的に物事を考え、理解するための言葉や文章を身につけ、高校段階では、現代文を通じて現代のさまざまな問題に対して多角的な見方や考え方ができることを知り、広い視野のもと、物事を考えられるようにするとともに、自分の考えを筋道立てて表現できるようにする。
		・古典を通じて歴史や文化の特色を理解するとともに、文法や句法の分析を通じて読解を深め、問題を解決できる力を養成する。
項目2	目標	② 生徒が積極的に国語の学習に取り組める授業を実践する。
	達成方法	・授業では、音読の機会、発問の機会、発表や発信の機会をできるだけ多く増やし、受け身ではなく主体的に授業に参加させていく。 ・多種多様な文章を多く取り上げて扱うことで、読解力や表現力の基本となる多くの語彙やさまざまなものの考え方や感じ方に触れさせ、習得させていく。
		・タブレットの活用と、「スタディサプリ」などの自習教材アプリを活用し、能動的な学習を習慣化させる。
項目3	目標	③ タブレットや電子黒板を用いて、音声教材、映像教材を取り入れた五感を刺激する授業を実践する。
	達成方法	・教員間で密に連携しながら、授業研究を深める。授業見学なども積極的に行う。本文掲載や板書補助、映像や音声資料を自宅学習生徒にはzoom、Youtube、manaba、loiloで、対面学習生徒には電子黒板で積極的に活用する。タブレットの活用により、意見、発言のアウトプットを促す。
項目4	目標	④ 生徒の進路実現の為に、個別に親身になって生徒に対応する。
	達成方法	・定期考査や小テストにおいて成績が伸び悩んでいる生徒には放課後や長期休業中に課題や補習を課して伸長をはかるとともに、生徒のニーズに応じ、授業や放課後講習などで積極的に演習(入試問題演習)を実践して、能力を伸ばしていく。

地歴公民科 2020年度重点目標		
項目1	目 標	大学入試改革に合わせた考査の作成や受験指導方法の確立
	達 成 方 法	知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力の発達度を正確に測り、その力を伸ばすための考査を作成する。
		教員個々に採点基準が異なることで結果に差異が生じないように、教科共通のルーブリックを検討していく。
		また教科内で各教科担当の定期考査を共有し、検討していく。
項目2	目 標	学習指導要領改訂に先んじたカリキュラムの検討・完成
	達 成 方 法	上記の目標の達成がよりスムーズになるために有効なカリキュラムを検討・作成していく。
		学習指導要領改定に伴い新たにできる高校生のカリキュラムについて検討していく(歴史総合、地理総合、公共)
		また地歴公民科だけでなく、他科目とも連携できる教科横断型のカリキュラムを提案していくことも視野に入れる。
項目3	目 標	オンラインでの授業スキルの向上とコンテンツの充実
	達 成 方 法	昨今の状況を鑑み、学校外においても授業を実施できるシステムを構築する。
		各教員で作成した動画をはじめとした教材を、社会科全体で共有し、コンテンツを作成していく。
		そのためにも、オンライン授業に関する知識、技術を教科内で共有し教科全体での向上を図る。

数学科 2020年度重点目標		
項目1	目標	授業の質の向上
	達成方法	反転授業により演習量を増やすと共に、アクティブラーニングを活用し生徒の積極的な活動を促す。
		研究授業による振り返りを行う。また積極的な授業見学を行い、意見交換をし、科としてのスキルアップを図る。
項目2	目標	ICTの活性化
	達成方法	タブレットを使った授業の実践。スタディサプリを用いて予習など自学自習を促したり、自分の作った解答を交換し合い、自らの学習姿勢を整える。
		ロイロノートやZoomを活用し、自宅からの質問にも対応し、自宅学習のサポートを行う。
		模試や、大学入試問題の解説をビデオに撮り、インターネット上でいつでも自学自習できる環境を整える。
項目3	目標	基礎学力の定着
	達成方法	MMTや小テスト等のこまめな実施。合格点を設け、合格するまで丁寧に指導していく。
		外部模試を検証し、弱点を随時把握し、講習等を用いて補強していく。
		中学3年生、高校1年生は数学検定を全員受検。他学年においても推奨していく。
項目4	目標	変わりゆく大学入試への適切な対応
	達成方法	大学の入試問題を解き、教科で研究し情報共有する。また、その入試問題の特徴をシートにまとめ、生徒へ情報還元する。
		全教員で各定期テストを研究し、変わりゆく大学入試に適しているかどうかなど、質の向上を行う。
		研修などに参加し、教科で情報共有する。

理科 2020年度重点目標		
項目1	目標	①生徒が理科に興味関心を抱き、進んで学習するような授業を計画し、基礎学力の定着および成績向上をはかる。
		②高校の生徒が大学受験に対応できるような授業展開および教科研究をする。
	達成方法	①授業中は、生徒が主体的に学習活動を行えるように、実験や実習、演習を多く取り入れる。
		実験や観察が困難な単元では、講義型の授業だけにならないように、書く・考える・話し合うなどの活動を多く取り入れる。
		授業内に小テストや振り返りを行うことにより、生徒自身が知識の定着を図れるような授業展開をする。
		②知識の定着とともに、問題演習を行うことにより、より発展的な知識理解ができるような授業展開および考査を実施する。
		教科内での教員が情報共有を行い、受験指導は教科全員で行う。
項目2	目標	さまざまなツールを使い、オンライン授業にも対応できる授業計画を行う。
	達成方法	学年及び科目ごとに、効果的な授業方法を確立し、共有する。
		ロイロやZOOM・動画を利用した授業や課題、スタディサプリを活用した予習・復習を行うことにより、家庭でも効果的に学力を伸ばせる環境を整える。
項目3	目標	学年・クラス・コースごとに目的をもった教科指導を行う。
	達成方法	高校3年生は、受験生指導として幅広い成績層の中で志望校別・レベル別に対応する。
		高校2年生は、3年生から受験演習にスムーズに入れるように基礎学力の定着を図り、演習問題への着手を目指す。
		高校1年生以下は、興味・関心を引き出すため、実験や視覚に訴える授業展開を意識する。また、基礎基本の定着を、問題演習や小テストを通して徹底する。
		理科としての学力だけではなく、グローバル教育や環境問題なども視野に入れながら授業展開を行う。

保健体育科 2020年度重点目標		
項目1	目 標	授業の質の向上
	達 成 方 法	体育の授業実施にあたり、教員全員が礼儀・時間厳守・思いやり・身だしなみ・協調性等の共通認識を持ち、指導の一貫性を図る。
		生徒全体に向け、授業の心得を熟知させ、お互いに配慮して、安全で積極的に活動ができるようにする。
項目2	目 標	ICTの活性化
	達 成 方 法	オンライン授業の実践。活用。
		タブレットを活用して、実技においては互いに動画を撮影し、技術の向上を図る。保健においては調べ学習・提出等に活用。
	目 標	基礎体力の定着
	達 成 方 法	本年度は、運動不足になりがちであるので、自宅でもラジオ体操、筋力トレーニングを促し、体力向上に努める。
		生涯に通じる運動習慣を身に付けさせる。

芸術科 2020年度重点目標		
項目1	目 標	丁寧な対面教育を心掛け、生活習慣の基礎を身に付けさせるとともに、生徒本人の主体的な取り組みを促す。
		タブレットなどのICTを使い、より分かりやすく深い授業を展開していく。
	達成方法	・生徒間・生徒教員間の自由な意見交換を促すと共に、主体的な芸術の構築に努め、高いレベルの演奏・作品を目指す。
		・授業の内容に応じてタブレットなどのICTを使って、課題の理解を深めさせる。
項目2	目 標	芸術活動を通じて、目標に向かって諦めずに努力する姿勢を養い、達成感を通して豊かな心を養う。
		・挨拶、姿勢、授業態度に留意し、芸術に取り組む基本的な心構えを習得させる。
	達成方法	・音楽・美術・書道それぞれの科目の中で与えられた課題に真摯に取り組む、目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢を養う。
		・高い目標を設定し、目標を達成するために仲間と協力し、その過程で生じる様々な問題を自ら解決していく力を育てる。
項目3	目 標	生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる
	達成方法	・芸術の崇高さと力強さを理解させ、芸術が自己及び第三者の心を豊かにすると共に、生きる力を与えることができることを実例をもって理解させる。

外国語科 2020年度重点目標		
項目1	目 標	「実践的英語力」を目指した英語の授業の充実を目指す。
		英語をコミュニケーションの道具として理解し、実際の場面で使えるようにする。
		英語学習が目的ではなく、生徒それぞれの目的を達成するための強力な力であるという認識を生徒も教員も全員で共有する。
	達成方法	・クラスルームイングリッシュを多用し、生徒の多様な英語活動を授業に取り入れる。
		・オンライン英会話を家庭で積極的に行うことで、英語での実践的な会話力を養う。それによって外部検定試験の結果に繋げる。
		・アクティブラーニングを実践し、またロイノート等も活用しながら、生徒の能動的な授業参加を促す。
		・生徒がグループワークとして課題プレゼンテーションを英語でするように指導する。
		・プレゼンテーションコンテストの指導を通して、生徒が大勢の人に対して自分の意見を英語で効果的に発表できるようにする。
		・ディベートの指導を通して、生徒が相手の立場を理解して、論理的に考え、自分の考えを相手に効率的に英語で伝えられるようにする。
項目2	目 標	大学合格率の向上を推進する。
		アドバンストGクラスの生徒は国立・私立難関校を積極的に受験し、受験した生徒の過半数が希望校に進学する。
		アドバンストSクラスの生徒はGMARCHレベルの大学を積極的に受験し、受験した生徒の過半数が希望校に進学する。
		GLC生は、海外大学やSGUを積極的に受験し、受験した生徒の過半数が希望校に進学するようにする。
	達成方法	・電子黒板の活用を促進する。教科書本文の解説、英文法や英語構文の分析・解説を電子ペンを使ってわかりやすく行う。
		・パワーポイントを利用して、動画やイラストを見せたり、アニメーション機能を使って英文を立体的に理解できるようにする。
		・デジタル教科書のフラッシュカード、スラッシュリーディング、シャドーイングなどの機能を使って生徒の理解を促進する。
		・タブレットのスタディサブリEnglishで家庭学習を促進し、英語の合計学習時間を学校での授業時間の2倍以上になるようにする。
		・授業のスピードを上げ、教科書を早く終わるようにし、次年度に残さない。余裕の時間を利用して模試対策を授業時間内に実施する。
		・早朝・放課後の補習体制を整え、理解の遅い生徒を助け、生徒の全体的なレベルアップに繋げる。
項目3	目 標	グローバルリーダースクラス(GLC)の充実を図る。
		GLCの授業活動が牽引力となってアドバンストクラスの英語の授業が変化するようにする。コアクラスにも会話に使える基礎力をつける。それによって、学校全体が「グローバル」の意識を持って、世界の課題を理解し、主体的に考えて行動するようにする。
		英語だけでなく第二外国語としてのフランス語の教育の普及を促進する。
	達成方法	・ネイティブと日本人教員の協力を進め、教員間の英語でのコミュニケーションを密にする。教科会での英語の使用を多くする。
		・英語の授業を教員がお互いに参観する。必ず授業後の意見交換をする。
		・校外の様々な研修会に英語教員が積極的に参加する。また校内で英語ディベートの研修を行い、英語表現にディベート学習を導入する。
		・他教科の教員と連携を深める。特に生徒が日本語でディベートが出来るように、校内の環境を整える。
		・海外提携校との連携を深める。帰国した生徒同士が交流する機会を多くする。両校の教員同士が互いを理解し新たな企画をする。
		・外国語発表会やコリブリの交流・留学を通じてフランス語の学習を盛んにする。仏語のネイティブの授業環境を準備する。

家庭科 2020年度重点目標		
項目1	目 標	・アクティブラーニング授業を展開し、「自ら学ぶ姿勢」を身に付け、生徒自らが実践していくように導く、質の高い授業を展開できるようにする。
		・技術分野で、プログラミング教育を取り入れていけるよう準備を進める。
	達 成 方 法	・質の高い授業展開を目指して、電子黒板・タブレットなどのICTを 充分活用 した指導ができるよう、自己啓発し、開発、研修に力を注ぐ。
		・被服のコーディネート、調理や栄養価計算など女子に受け入れやすい分野のプログラミングの分野を研究し、指導に生かしていく。
項目2	目 標	・コロナ下での実習の実施方法について検討する。
		・社会人として必要な生活の基本である「7つのルール」を徹底する。日本の伝統文化やマナーの学習で、特に「あいさつ」「清掃美化」「生活習慣の基礎」をしっかり身につけられ、人間力が備わった上で、学力 がつくことを目指して指導する。
		・日々の授業で、「7つのルール」にのっとった授業を展開する。特に、挨拶は繰り返し指導することで身体化を目指す。
		・学習の中で、生活環境を整えることの大切さを知り、清掃美化が心身ともに健康であるために大切であることを知らせる。
項目3	目 標	・学力は、知識のみでなく、実践を伴ってこそ生かされることを学習の中で理解できるように指導する。
		・「目標に向かって最後まで諦めず努力する姿勢」を 育てる場面を多様に配置する。
項目3	達 成 方 法	・実習・課題、検定等を通して、成功体験を重ねることで、自らの行動に自信と誇りを持つことができるようにする。さらに、最後まで諦めず努力することの素晴らしさや、やり遂げたときの達成感を体感することで、さらにその気持ちを高められるようにする。

情報科 2020年度重点目標		
項目1	目 標	ICTを活用する授業の実践
	達 成 方 法	・ロイロノート・スクールやmanabaなどのクラウドシステムを活用した授業を実践する。
		・ICT活用委員会と連携し、システムトラブルやアプリケーションのアップデートに対応しつつ、授業を円滑にすすめられるよう校内のICT環境の整備に努める。
		・動画や検定の活用など、休校時のオンライン授業へのシームレスな移行を念頭に置いた授業展開を行う。
項目2	目 標	生徒が積極的に参加する授業の実践
	達 成 方 法	・オフィスソフトについて、基本的な操作方法の習得だけでなく、実践的に活用できるように、演習を中心にして、生徒が自ら学び考えて効率の良い操作方法を身につけるように促す。
		・ICTの知識習得だけでなく、問題意識を持ち主体的に考えて行動できるようにする。
項目3	目 標	社会の変化や最新のICT技術に対応する
	達 成 方 法	・最新のICT技術の動向を常に注視し、外部研修会や展示会等に積極的に参加し教員間での情報共有に努める。それらを授業に還元できるよう努める。
		・外部資格試験を効果的に取り入れる。